

平成26年度 鹿児島県中学校総合体育大会
第65回 鹿児島県中学校軟式野球競技大会

特別規定及び注意事項

1 運営等に関すること

- (1) ベンチには登録された監督・自校常勤教職員・外部指導者(コーチ)・選手以外は入れない。
- (2) 登録された外部コーチは外部コーチ章(写真入り)を付ける。(用紙は実行委員会で準備)
- (3) 監督はチームと同一のユニホームとする。なお、背番号30をつける。
コーチとしてベンチに入る場合の服装は、ユニホームまたは平服(ワイシャツ・ネクタイまたは白を基調としたポロシャツ・同一の野球帽)とする。但し、女性の場合は考慮する。ノックを行う者はユニホームで行う。※コーチの背番号(29、28)はつけない
- (4) 雨天等による大会実施可否の判断及び日程の変更については大会本部で決定する。
- (5) 天候その他で試合続行が不可能と大会本部が判断した場合は、
 - A 4回を完了していたら正式試合とする。
 - B 4回に満たない場合は再試合とする。
 - C 4回終了時点で同点の場合は、継続試合とする。
 - D 特別延長戦での途中中止の場合はその回の初めから再開し、その回が終了した時点で同点の場合には継続試合とする。
- (6) 試合終了は、ホームプレートをはさんだ挨拶で全てとする。また、相手チームのベンチ及び本部席への挨拶は行わず、自チーム応援席への挨拶後、ベンチを速やかに空ける。
- (7) 勝ち残りチームの自校常勤教職員または監督は、球場を出る前に大会本部に連絡し、次の試合日程の確認を行う。
- (8) 応援用の横断幕は、スタンドフェンスのグラウンド側ではなく観客席側につける。
(可能であればスタンド後方に立てる)
- (9) スタンドでの応援は、基本的に各チームの監督が責任をもって、中学生らしい応援を心がけること。特に鳴り物(太鼓・ペットボトル等)を使用する場合は、自チームの攻撃時のみとする。但し、球場によっては制限することがある。プラスバンドについては、事前に相談すること
- (10) 投手の使用するロジンは、大会本部が準備したものを使用すること。
- (11) 自然災害(台風等)等で交通途絶状態が生じて大会に出場できない時は、そのチームは辞退したものと取り扱う。
- (12) 4回裏終了後に補助員によるグラウンド整備を行う。バッターボックスは整備後にラインを引くが、ピッチャーズマウンドには整備を入れない。また、5回表の準備投球は3球以内とする。

2 試合前に関すること

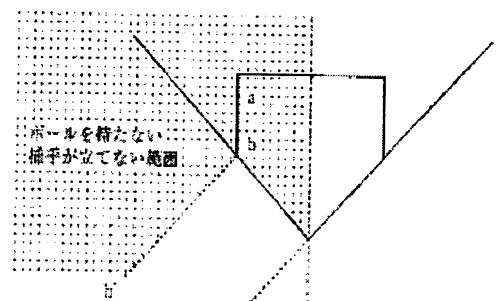
- (1) 第1試合及び同一チームが連続して行う試合のメンバー用紙交換及び攻守決定等は試合開始予定時刻の40分前とし、その他の試合については、前試合の4回終了時とする。各チームの監督と主将は、メンバー用紙5部(本部・審判・放送・相手チーム・自チーム)を持って所定の場所へ集合する。
- (2) ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
- (3) シートノックは試合開始30分前から、後攻側から始め通告時より5分以内とするが、天候等事情により省略・短縮またはサイドノックに変えることもある。ダブルゲームの場合、シートノックは行わない(球場が変わる場合はこの限りではない)。シートノックをしていないチームはベンチ内で待機すること。ただし、先発バッテリーのみ球場内ブルペンの使用と、終了1分前の通告後ベンチ前でのキャッチボールや準備運動は認める。またノックは監督・コーチが行う。選手20名以外に背番号をつけない補助員5名を認める。ただし、補助員はヘルメットを着用すること。(大会1日目はサイドノックとする)
- (4) 試合前に大会実行委員による用具検査、マナーチェックを行う。大会1日目の第2試合目以降の用具検査、マナーチェックは、前試合の5回終了時に行う。
- (5) 2試合目以降の先発バッテリーに限り、前試合の4回終了後(オーダー交換後)、球場内のブルペンを使用することができる。服装は試合用ユニホームとする。また、捕手は捕手用具の全てを装着すること。
- (6) 同一チームが連続して試合を行う場合の2試合目の開始時刻は、1試合目終了から40分後を原則とするが、天候によっては本部で判断することもあるので、この限りではない。

3 ルール等に関すること

- (1) ベンチ内のメガホンの使用は1個とする。(使用は監督のみ)
- (2) リストバンド・バットリングの使用を禁止するが、マスコットバットの使用は許可する。
- (3) 手袋の使用は攻撃・守備に関わらず許可する。但し、色については黒または白の単一色及び両手同一の色とし、華美にならないようにする。また、サポーター(手首や指を固定・保護する目的の物)の使用は、医療目的に限り、試合前に大会本部に申し出て許可を得る。
- (4) 審判員の宣告に異議を申し出ることは許させない。規則上の疑義については、監督、主将または当該プレイヤーがアピールをすることができる。
- (5) 監督はフェールラインを越えてダイヤモンド内には入れない。コーチはノック時以外はベンチから出ない。

- (6) 事故防止のため、打者・走者・次打者・ランナーズコーチは両耳用ヘルメットを着用する。また、捕手はスロートガード付きマスク・レガース・捕手用ヘルメット・プロテクター・ファールカップを使用する。
- (7) 攻守交代時の代理捕手は、必ず捕手用ヘルメット・スロートガード付きマスク・プロテクター・レガースを使用する。(尚、ファールカップの着用が望ましい。)
- (8) 攻守交代は迅速に行い、守備側の投手またはプレートに最も近い野手が球を投手板近くに置く。また、攻撃側の先頭打者とランナーズコーチは速やかに所定の位置につく。
- (9) 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。次打者は、投手の投球が始まったら次打者席で低い姿勢で待つ。
- (10) 投手の準備投球は、初回と投手交代のときは7球以内とするが、2回以降は3球（主審が状況を考慮する）とする。
- (11) 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意し、球を投手に戻させる。
- (12) 突発事故が起きた場合に、一時走者を代えたいときは球審に申し出て、審判員が必要と認めた場合はこれを許可する。臨時代走は、投手・捕手を除く打者前位の者とする。
- (13) 試合進行上、打者席を外したり、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見る、投手はプレート上でサインを受けるなどスピーディーな試合進行を心がける。ボール回しは試合の進行上禁止することがある。
- (14) 規則3・03原注（投手は1イニングで投手以外の守備に2度以上つくことは許されない。）は、本大会では適用しない。
- (15) 規則7・06(a)【付記】（捕手のブロック）の適用について、中学野球では『ボールを保持している時しか塁線上に位置することはできない』こととする。
〔規則適用上の解釈〕
- ① 走塁妨害を適用するのは、あくまでも捕手のその行為がなければ、当然本塁に到達できたと判断できる場合である。
 - ② 捕手のその行為が走塁妨害にもかかわらず、瞬間的に『アウト』のコールをした場合でも改めて「オブストラクション」の宣告をしない。
 - ③ 走塁妨害適用外であってもそのような行為があった場合は、試合を停止したうえ、捕手に対して嚴重注意すること。
 - ④ ボールを保持する前の位置は次のとおりとする。
ア ホームベースの中央線より右側に立ちベースの左半分走者に見えるようにすること。
イ また、捕手がホームベースより後方に位置するときでも、ホームベースと3・本間のラインが重なる3塁よりの接点（b-b'点）から前方に出てはいけない。
 - ⑤ 捕球してからの動き
ボールを保持しているときは塁線上に移動してタグをしてもよい。
- (16) タイムの制限について（本県では）
- ① 捕手を含む内野手2人以上が、タイムをとり、投手のところへ行ける回数を、7イニングの試合にあっては3回以内とする。なお、監督がとったタイムも含む。攻撃時のタイムは7イニングの試合にあっては3回以内とする。なお延長戦となった場合は、守備・攻撃合わせて2イニングに1回タイムをとることができる。特別延長戦になった場合は、1イニングに守備・攻撃合わせて1回とることができる。
 - ② 監督が、同一イニングに同一投手のところへ、2度行くか、行ったと見なされた場合（伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合）は、投手は自動的に試合から退かなければならない。この規則については、中学野球では交代した投手が他の守備位置につくことが許される。
〔規則適用上の解釈〕
中学野球では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員はこれを作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように留意されなければならない。
 - ③ 試合進行や大会運営を円滑に行うために、無用なタイムは慎む。
- (17) 塁上の走者及びコーチボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。

【別図】



4 マナー等に関すること

- (1) ユニホーム・頭髪・用具類は中学生らしく、華美にならないように留意すること。
 - ① ユニホームはベルトをきつく締め、試合中に上着が出ないように十分気をつけること。
 - ② 帽子は前髪が見えないように深くかぶること。
- (2) 監督・コーチの服装についても選手と同様、十分留意すること。シューズについては、選手と同色のアップシューズまたはスパイクで、開閉会式・試合においても着用すること。
- (3) ストッキングは選手によってミドルカットやローカット等が混在しないようチームで統一すること。ソックス（白色）とストッキングの両方を着用すること。
- (4) 参加校はゴミ袋を準備し、責任をもって後かたづけを行い持ち帰ること。弁当の空き箱についても業者に確認し、確実に処分すること。